

機関番号：14401

研究種目：基盤研究 (B)

研究期間：2007～2010

課題番号：19320060

研究課題名 (和文)

役割語の理論的基盤に関する総合的研究

研究課題名 (英文)

A comprehensive study on the theoretical basis of role languages

研究代表者

金水 敏 (KINSUI SATOSHI)

大阪大学・文学研究科・教授

研究者番号：70153260

研究成果の概要 (和文)：

役割語とは、一定のキャラクタと対応関係を持つ話し方 (語彙、語法、音声的特徴等) のヴァリエーションのことである。本研究では、1) 役割語の理論的基盤、2) 幼児の役割語獲得のプロセス、3) 個別の役割語についての記述的研究と歴史的起源の探求、4) 日本語と外国語との対照研究、5) 教育への応用、という5つの問題について、検討してきた。その結果、社会的属性が役割語の中核となること、役割語の知識が5歳までに獲得されること等を明らかにした。

研究成果の概要 (英文)：

Role language (*yakuwarigo*) is defined as sets of spoken language features (e.g., vocabulary and grammar) and phonetic characteristics (e.g., intonation and accent patterns) associated with particular character types. Throughout the funding period, this study investigated five research questions: (a) the theoretical basis of role language; (b) the process of children's acquisition of role language; (c) descriptions of and the historical origins of role language varieties in Japanese; (d) cross-linguistic analyses of role language between Japanese and foreign languages; and (e) the educational applications of role language study. The main findings are as follows: the formation of role language is based on social attributes, and by the age of five, children had already acquired knowledge of role language.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2007年度	3,500,000	1,050,000	4,550,000
2008年度	3,500,000	1,050,000	4,550,000
2009年度	3,500,000	1,050,000	4,550,000
2010年度	3,700,000	1,110,000	4,810,000
年度			
総計	14,200,000	4,260,000	18,460,000

研究分野：国語学・言語学

科研費の分科・細目：言語学・言語学

キーワード：役割語 ステレオタイプ 心理言語学 社会言語学 対照言語学

1. 研究開始当初の背景

2003年に金水が『ヴァーチャル日本語 役割語の謎』を出版したことを契機に、役割語という概念が学界に知られるようになった。

役割語とは、特定の話者の人物像 (キャラクタ) を想起させるような、特徴を持った話し方 (語彙、語法、音声的特徴等) のことを指す。例えば「わしは知っておるんじゃ」とい

う言い方が、多くの日本語話者に老人の話し手を想起させるような現象であり、その話し方を〈老人語〉などと名付ける。役割語は、一種のステレオタイプであり、現実の話者とは似ていることもあれば似ていないこともある。役割語は語彙論・文法論のみならず、歴史言語学、社会言語学、対照言語学、心理言語学、日本語教育学等の幅広い研究的基盤が必要であるが、これらを金水一人でカバーすることは難しい。そこで、多分野の研究者を集め、役割語研究の基盤を固めることが必要であると考え、研究チームを組織し、科学研究費を申請した。

2. 研究の目的

- (1) 役割語がどのように形成され、流通し、また変容していくか、現実の発話と仮想的な作品内での発話の関係はどのようなものであるか、という問題について理論面と実証面の双方から明らかにしていく。
- (2) 特に、心理学的な観点から、幼児がどの時点で、どのようなプロセスで役割語を獲得するか、という問題について実験的な手法で解答を求めていく。
- (3) 個別の役割語にどのようなものがあるか、また歴史的どのような起源を持つか等について、事例を収集・整理することによって記述していく。
- (4) 日本語以外の言語において役割語がどのように現れているか調査し、日本語との共通性・相違点等について対照言語学的に探求する。
- (5) 役割語の知識が、教育においてどのように貢献しうるか、実践的に検討していく

3. 研究の方法

- (1) 理論面については、国語史、対照言語学、社会言語学、言語心理学、文学理論等の先行研究を参照しながら、実証的・実験的な研究の成果と突き合わせつつ、仮説を構築していく。
- (2) 役割語知識の獲得については、3歳児と5歳児を対象に実験を行う。刺激音声として、〈老人語〉〈少年語〉〈女ことば〉〈お嬢様語〉〈男ことば〉等の台詞を聞かせ、該当する話者のイラストを選択させるという方法をとる。
- (3) 個別の役割語の探求については、小説、マンガ、アニメ、映画等、ポピュラーカルチャー作品を中心に幅広く用例を集め、類型を機能していく方法をとる。特にマンガについては、京都国際マンガミュージアム等を活用し、豊富な用例の採取に努める。
- (4) 外国語との対照研究については、研究分担者・連携研究者の山口治彦、勅使河原三保子を中心に英語との対照を進め、また研究分担者・連携研究者の定延利之、鄭惠先が中国

語・韓国語の調査を進める一方で、他の研究協力者とともにドイツ語、スペイン語について用例を収集・整理し、考察する。

(5) 教育への応用については、研究分担者・連携研究者の鄭惠先を中心に、日本語教育・翻訳教育における実践を積み重ねる。また金水と研究分担者・連携研究者の岡崎友子が、人文学教育の入門素材としての役割語について、実践的に検討を重ねる。

4. 研究成果

- (1) 役割語の形成については、性、年齢・世代、階層・職業等による社会的属性が役割語の中核を占め、また多く現実を出発点としながら、一旦ステレオタイプが形成されると、現実とは無関係に創作物のみから情報が入力されるという仮説を構築した。また研究分担者・連携研究者の定延利之は、キャラクターという対象が人格とスタイルの中間に位置することを主張した。
- (2) 心理実験については、パイロットの実験の段階ではあるが、3歳ではほとんど役割語の知識の運用が観察されず、一方で5歳では大人とさほど変わらない知識が形成されていることが認められた。
- (3) 個別の役割語については、〈男ことば〉〈女ことば〉について用例を増やし、時代ごとの変遷を細かく追うことができた。また〈幼児語〉〈おばあさん語〉〈やくざ語〉等、さまざまなキャラクターについて用例を収集・整理した。
- (4) 英語については、日本語との文法上の差異から、語彙的に明示的な標識に乏しいものの、方言、ピジン等を源泉とする役割語が存在することが確かめられた。ドイツ語、スペイン語についても同様であるが、言語個別の役割語表示の方法も認められた。韓国語については、日本語に似たキャラ語尾がネット書き込み等で現れつつあることが認められた。
- (5) 日本語教育では、現在使われている教科書に既に役割語がふんだんに利用されていることが確かめられ、役割語を意識しながら有効に利用することが重要であることが示された。また翻訳教育における実践により、役割語導入の有効性が実証された。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計5件)

- ①金水 敏 (2011) 「翻訳における制約と創造性—役割語の観点から—」杉藤美代子(編)『音声文法』pp. 169-179 くろしお出版、査読無し

②金水 敏 (2010) 「現代日本語の役割語：ステレオタイプ的話体の研究」『言語学と日本語教育』VI, pp. 1-7, くろしお出版, 査読無し

③金水 敏 (2010) 「現代日本語の役割語と発話キャラクター」『日東学研究』Vol 2, 99-110, 韓国・江原大学校・日本学研究センター, 査読無し

④定延利之他 (2007) 「コミュニケーション・文法とキャラクターの関わり」『言語』37-1、52-59、査読無し

⑤勅使河原三保子 (2007) 「音声による人物像の表現と知覚」『言語』37-1、60-65、査読無し

[学会発表] (計 8 件)

①萱さやか (2011 年 2 月 6 日) 「役割語獲得に関する心理学的基盤」公開シンポジウム「役割語・発話キャラクター研究の展開」於大阪大学, 大阪府

②山口治彦 (2011 年 2 月 6 日) 「役割語のエコロジー—他人キャラの導入とコンテクストとの関係—」公開シンポジウム「役割語・発話キャラクター研究の展開」於大阪大学, 大阪府

③勅使河原三保子 (2011 年 2 月 5 日) 「役割語の音声的側面の研究」公開シンポジウム「役割語・発話キャラクター研究の展開」於大阪大学, 大阪府

④鄭惠先・恩塚千代 (2011 年 2 月 5 日) 「SNS 活動「日韓役割語相互学習倶楽部」への参与観察報告—カキコミに見られる両言語学習者の役割語意識—」公開シンポジウム「役割語・発話キャラクター研究の展開」於大阪大学, 大阪府

⑤金水 敏・池田貴子 (2009 年 3 月 29 日) 「ピジン日本語と中国人像の変遷」シンポジウム・研究発表会「役割・キャラクター・言語」於神戸大学百年記念館, 兵庫県

⑥定延利之 (2009 年 3 月 29 日) 「キャラクターは文法をどこまで変えるか?」シンポジウム・研究発表会「役割・キャラクター・言語」於神戸大学百年記念館, 兵庫県

⑦岡崎友子・南侑里 (2009 年 3 月 28 日) 「役割語としての「幼児語」とその周辺」シンポジウム・研究発表会「役割・キャラクター・言語」於神戸大学百年記念館, 兵庫県

⑧金水 敏 (2009 年 3 月 28 日) 「役割・キャラクター・言語をめぐる」役割語としての「幼児語」とその周辺」シンポジウム・研究発表会「役割・キャラクター・言語」於神戸大学百年記念館, 兵庫県

[図書] (計 4 件)

①中村桃子 (編)・金水 敏他 (著) (2010) 『ジェンダーで学ぶ言語学』世界思想社, 金水の担当はI-2「男ことば」の歴史—「おれ」「ぼく」を中心に」(pp. 35-49)

②伊藤公雄 (編著)・金水 敏・吉村和真他 (著) (2008) 『マンガの中の他者』(ビジュアル文化シリーズ), 臨川書店, 金水担当: 第 1 章 (pp. 14-60)、おわりに (pp. 223-227)

③金水 敏・乾 善彦・渋谷勝己 (共編著) (2008) 『日本語史のインタフェース』シリーズ日本語史, 4 岩波書店, 金水担当: 第 1 章 (pp. 1-23)、第 7 章 (pp. 205-236)

④金水 敏 (編著) 吉村和真・山口治彦・定延利之・鄭惠先他 (著) (2007) 「役割語研究の地平」くろしお出版, 金水担当: 導入 (pp. 1-6)、第 5 章 (pp. 97-108)、第 10 章 (pp. 193-210)

[その他]

ホームページ等
科研費サイト

<http://skinsui.cocolog-nifty.com/sklibrary/>

「SK の役割語研究室」

<http://skinsui.cocolog-nifty.com/sklab/>

「SK の役割語図書室」

<http://skinsui.cocolog-nifty.com/sklibrary/>

6. 研究組織

(1) 研究代表者

金水 敏 (KINSUI SATOSHI)
大阪大学・文学研究科・教授
研究者番号: 70153260

(2) 研究分担者

(3) 連携研究者

山口 治彦 (YAMAGUCHI HARUHIKO)
神戸市外国語大学・外国語学部・教授
研究者番号: 90220269

(2007 年度は研究分担者。2008 以降連携研究者)

定延 利之 (SADANOBU TOSHIYUKI)
神戸大学・国際文化学研究科・教授
研究者番号：50235305
(2007年度と2009年度は研究分担者。2008年度と2010年度は連携研究者)

鄭 惠先 (CHON HESON)
北海道大学・留学生センター・准教授
研究者番号：40369856
(2007年度は研究分担者。2008年度以降連携研究者)

勅使河原 三保子 (TESHIGAWARA MIHOKO)
駒澤大学・総合教育研究部・講師
研究者番号：40402466
(2007年度は研究分担者。2008年度以降連携研究者)

渋谷 勝己 (SHIBUYA KATSUMI)
大阪大学・文学研究科・教授
研究者番号：90206152
(2007年度は研究分担者。2008年度以降連携研究者)

松井 智子 (MATSUI TOMOKO)
東京学芸大学・国際教育センター・教授
研究者番号：20296792
(2007年度は研究分担者。2008年度以降連携研究者)

吉村 和真 (YOSHIMURA KAZUMA)
京都精華大学・マンガ学部・准教授
研究者番号：00368044
(2007年度は研究分担者。2008年度以降連携研究者)

岡崎 智子 (OKAZAKI TOMOKO)
就実大学・人文学部・准教授
研究者番号：10379216
(2007年度は研究分担者。2008年度以降連携研究者)

菅 さやか (SUGA SAYAKA)
東洋大学・社会学部・講師
研究者番号：30584403
(2010年度のみ)